たくましく
心豊かな
地球市民

瞳かがやく　附属松本中の子ら

すずかけの森

令和８年 11 月６日（金）
信州大学教育学部
附属松本中学校
学校だよりNo.６

開校 80 周年記念式典を無事に終え、これまで取り組んできた一連の記念事業も一段落となりました。保護者の皆様をはじめ、本校を支えてくださる多くの皆様、改めて感謝申し上げます。これまで大切にされてきた思いを受け継ぎ、附中の新たな歩みを重ねていきたいと思います。

10 月 29 日（木）は、附属小の児童と昼休みの交流を行いました。生徒会が中心となって準備を進め、NG ワードゲームやお絵描き、トランプ、おにごっこなどの遊びを通して、共に楽しい時間を過ごしました。小学生と目線を合わせて話をしたり、相手に伝わるように言葉を選びながら、ゆっくりと説明したりする中学生の姿が見られました。その姿からは、相手を思いやり、共に楽しもうとする気持ちが伝わってきました。同じテーブルを囲み、一緒になって遊びを楽しむ中で、自然と笑顔が広がっていました。今の附中生と、未来の附中生が共に過ごすひととき。小学生にとって中学生と過ごした時間が、中学校生活への楽しみや憧れにつながってくれたらうれしく思います。



11 月２日（月）には、「人権月間（11 月）」に合わせ、校長講話が行われました。

共に生きることを考える

～校長先生のお話より～

先日の 80 周年記念式典、多くの方が喜んでくださいました。

本校の誇りである合唱の発表。私は、観客席で来賓と聞きましたが、校歌を一緒に歌う観客の歌声が聞こえました。キッセイ文化ホールの方から、「たくさんの学校が歌うのを聞くけれど、反響板がないのにここまで歌声が聞こえるとはすごい」というお話をいただきました。

式典に続いて、２Ａの水グループの総合的な学習の時間の発表がありました。研究の専門家である学長の中村先生も大変褒めておられました。今後、他のグループのみなさんにも、チャンスがあれば積極的に発表に挑戦してほしいと思いました。

最後に、学長の中村先生から「知の扉を開く　学ぶことは未来を選ぶこと」を演題に話を聞きました。生徒会長のお礼の言葉に、中村先生だけでなく、学部長の西先生や学校評議員の皆さんも感心しておられました。

全校の皆さんは、式典でたくさんの方の話をお聞きしましたが、皆さんの聞く態度はどうだったでしょうか。ご来賓の方は、学長の中村先生、松本市教育長の曽根原先生をはじめ、皆仕事を休み、本校の 80 周年の来賓祝辞を事前に考え、無償で私たちのためにお祝いに来てくださいました。それは、皆さんもわかっていたと思います。しかし、「椅子も気持ちいいし、疲れて眠いから寝よう」という弱い心がささやきます。逆に、「自分たちのために来てくださっているから、しっかり聞こう」という自分の意思もあります。最終的には、弱い心に打ち克った人がしっかりと聞けていたのかなと思います。

心の段階で考えると、「眠いから、寝る」＝「三流」。「怒られるから、聞く」＝「二流」。「自分のために、来てくれるのだから感謝の気持ちをもって聞く」＝「一流」があったと思います。生徒会長のようにお礼の言葉まで伝えるとなると、超一流となるでしょう。皆さんには、ぜひ常に一流たるを目指してほしいと思っています。なお、この日本手ぬぐいは 80 周年の記念品として皆さんに本日配布します。同様に、記念の航空写真が印刷されたクリアファイルも配布します。そして、ここまでボランティアで活動してくれたプロジェクトチームの皆さんありがとうございました。（拍手）

さて、先日いじめの人権授業をしました。今日は、感想の共有をしたいと思います。

「わかっていたつもりだったけど、改めていろいろな人の意見を聞くことで、いじめに対する意見は様々であることを実感した。だからこそ、いじめた側といじめられた側での認識の違いが生まれ、問題に発展してしまうのだと思う。いじめとそうでないことの線引きを客観的な視点から明確にすることは難しいので、相手の気持ち

を考えて自分の行動や言動を見直すことが必要だと思った。」

「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと考えました。今は、法律でいじめの定義が被害者の受け止め方になっているけれど、それで正解だと思った。加害者にどんな理由があろうと、いじめという行為に手を出してはいけないと思った。」

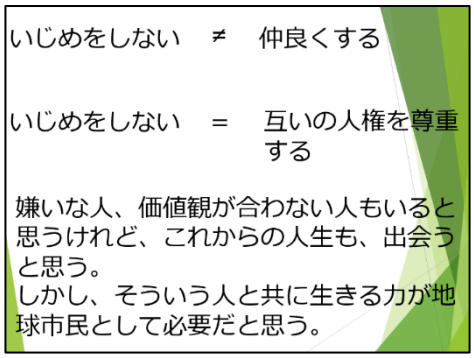
「互いに認め合い人権を尊重しないといけないのに、自己中心的な人は自分の意見だけを押し通そうとして我慢というものをしようとしない。そういう人とは誰も関わりたくないと思う。それでいじめというのは絶対におかしいと考えた。」

「価値観が違う人と仲良くするというのは難しいけれど、だからと言っていじめになるような行動をしないで、適切な距離感で生活していくことが大切だと思いました。今後もそうしていけるといいなと思います。」

「『どんな理由があっても』、この言葉だけで、あんなに話し合いが進むなんて、附中はやっぱりレベルが高くていいところだと思った。」

私は、いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思っています。ただ、皆さんが様々な考えをもって、真剣に考えてくれていることが嬉しいです。考え方が違うといって否定するのではなく、お互いを理解しようとし続けることが、いじめを許さない学校に近づいていくことだと考えています。これからも継続します。

私の考えを再確認します。「いじめをしない≠仲良くする」「いじめをしない＝互いの人権を尊重する」です。嫌いな人、価値観が合わない人もいると思うけれど、これからの人生も出会うと思う。しかし、そういう人と共に生きる力が、地球市民として必要だと思っています。



そして、今回どうしても話したいのが、11 月 26 日（木）に行われる人権講演会についてです。本校に有坂先生が来校し、講演会をしてくださいます。有坂先生を知っている人はいるでしょうか。有坂先生と私は、附属松本小に一緒に転勤してきた仲間です。年齢も近かったので、共に悩み、共に語らい、共に過ごした仲間です。しかし、2016 年にＡＬＳを発症し、教師を辞めざるを得ませんでした。この病気は現在、治療法がありません。有坂先生は「もっと働いていたい。学校に行きたい。なんて残酷な病気なんだ。何で自分がこんな病気に、なぜ、なぜ…」たくさん泣いたそうです。

今日みなさんに考えてほしいこと、それは「目しか動かせなくなったら、どうしますか」。手を挙げて教えてください。

「できることはやりたいと思うけど、全部家族頼みになってしまうと思うので、きっと心細い。」（１年）

「自由にできない。私ならずっと泣いているかもしれない。」（１年）

「自分でできないということは、周りに迷惑をかけてしまうということ。自分なら死んでしまうかもしれない。」（３年）

ありがとう。私もそんな厳しい状況の中では、自分の意思で「目はまだ動く」とは思っても、「歩けない」「食べられない」「話せない」「もう死にたい」こういう弱い心に支配されてしまうのではないかと思います。

しかし、有坂先生はどうしたと思いますか。「失ったものを数えるな、今あるものを最大限活かせ」という気持ちで、本を出版したり、自分の教え子たちと命の授業をしたりしているのです。有坂先生は言います。「今もね、病気との戦いはとっても辛いんだよ。でもね、とっても幸せな時がある。身体は動かなくても幸せをいっぱい感じられる。」

ぜひ、病気と闘いながら来てくださる有坂先生の思いを皆さんにはしっかりと受け止めてほしいと思います。保護者の方にもぜひ、紹介してください。